

とうによびょうもうまくしょう

糖尿病網膜症

――失明のおそれあり――

【糖尿病網膜症とは】

糖尿病の合併症で最も恐ろしいものの一つがこの糖尿病網膜症です。糖尿病が10年続けば半数以上、20年続けば8割以上で糖尿病網膜症が起こります。糖尿病網膜症は適切な治療をしないと失明につながります。

【病因】

糖尿病によって、網膜の毛細血管（動脈と静脈の間をつなぐ細い血管）が詰まったり、よわくなったりします。すると、網膜に出血がおこったり、水でふやけた状態になります。このふやけた状態が長い間続きますと、栄養障害を起こして網膜は次第に死んでゆきます。

【治療】

1. 血糖のコントロール

糖尿病は全身疾患ですから、良い血糖値を変動させないでおくことがなによりも大切です。内科の先生と協力して、血糖の良いコントロールをつけることが大切です。

2. レーザー光凝固

弱りつつある悪い網膜をレーザー光線の力でかためて、まだ元気な網膜を助けようとするものです。ですから、この治療方法では、網膜症の勢いを遅くすることはできますが、既に弱ってしまった網膜を助けることはできません。（弱ってしまった網膜を元通りにする方法は現在の所ありません。）

①汎光凝固術：片目につき4回、両目で8回治療します。網膜症の勢いが強い場合、8回では足りないのでありますから、その場合には、何回も追加していく必要があります。

②局所光凝固術：弱っている部分のみに、局所的に光凝固術を行います。

治療は一回につき約10分程度ですみ、煙も出ません。こわい治療法ではなく、通院でできます。

3. 硝子体手術

進行した増殖型糖尿病網膜症に対して行います。硝子体出血や牽引性網膜剥離の解消を目的とします。最近では、黄斑浮腫に対して施行することもあります。

4. 内服薬

飲み薬は、血管を強くする薬と網膜に栄養を与える薬です。どちらも副作用はほとんどありません。

【予防】

糖尿病網膜症はある程度進行してしまうと、悪循環に乗ってしまい、どんなに厳格に糖尿病の治療を行っても進行をとめることはできません。また、網膜症は一度発生すると消えることはまずありません。ですから、最も大切なことは、糖尿病網膜症を発生、進行させないことです。そのためには、内科の先生の指示に従って、厳格な血糖コントロールを行うことと、1ヶ月に1度は眼科受診し眼底検査を受けることです。